

四日市市農業再生協議会（三重県四日市市）

組織の概要

- 四日市市、JA、農業推進協議会長、農業委員等が構成員となり、H23年に設立。
- 農家数4,372名（R4年）（うち、水田麦・大豆産地生産性向上事業の対象は6経営体）
- 水田を有効活用した野菜等の高収益作物の導入を促進。麦、大豆、野菜等の転作作物の生産性向上に向けた農地集積を推進。

生産概要

- 【作付面積（事業受益地）】水稲：48ha、小麦：39ha、大豆：45ha（R4年）
- 水稲-小麦-大豆の2年3作体系を基本とする作付体系を推進。
- 四日市市全体では全水田面積の約6割を主食用米が占める。今後、安定した水田農業経営を実現するため、新規需要米、園芸作物と併せ、麦・大豆の生産拡大を図る。
- 品種は、小麦は日本麺用品種「あやひかり」、大豆は「フクユタカ」を作付け。一部生産者のほ場で、作期分散を目的として、フクユタカより播種時期の早い「サチユタカA1号」を試験的に導入。

取組のポイント

<先進的な生産技術の導入>

- 最大の課題である湿害対策のための技術として、弾丸暗渠施工の他、心土破碎又は深耕を実施。
- 効率的播種技術として、小明渠浅耕播種、耕うん同時畦立て播種又は狭畦密植栽培の中から、各生産者が、ほ場条件や所有する機械等に合った方法を選定して導入。耕うん同時畝立て播種を導入した一部生産者においては、作業の効率化に加え、高畦を立てることで排水性も高まり、単収向上にも寄与。
- 単収向上に向け、大豆においては、地力低下に対応するため、土壌診断に基づき土壌改良材を施用。麦においては、栽培品種「あやひかり」に合った生育中後期の追肥を実施。

<生産性向上に向けた機械の導入>

- 産地の中心的な生産者において、新たに中耕ロータリーを導入し、ブームスプレーヤーと併用することで、大豆で課題となっている帰化アサガオ等の雑草対策の効率化を図る。

<団地化に向けた取組>

- 担い手農業者に対する研修会の場を活用し、団地化の推進を図る。一部地区では、農地集積に係る話し合いが進んでいる。



<耕うん同時畦立て播種>

取組成果

<小麦・大豆生産の高位安定化の実現>

■ 生産量の増加

【小麦】 R3：95.8ト ⇒ R4：108.3ト（13%増）
〔R7目標：121.6ト〕

【大豆】 R3：15.5ト ⇒ R4：24.7ト（59%増）
〔R6目標：23.3ト〕

■ 単収の向上

【小麦】 R3：266kg/10a ⇒ R4：276kg/10a（4%増）

【大豆】 R3：44kg/10a ⇒ R4：64kg/10a（45%増）

